ISSN 0386-4790

国文学研究資料館報
第35号
平成２年９月

欧州瞥見日録

本田康雄

五月一四日発、同三一日帰着の日程で海外出張に出かけることになり、急ぎ準備して、英、蘭、独、仏と歩いた。同僚の歌野博氏と道連れの旅である。この春、国文学研究資料館編で岩波書店から出版された『古典籍総合目録』全三巻（『国書総目録』続編）の披露をかねて各地の日本学研究者と連絡をとる仕事が主だが、併せて大学生、大学院生がどの様に日本の文学と文化に接しているか、彼女等、彼等の研究生活の実態を見聞することも旅の目的の一つであった。仕事の合間はたっぷり観光をかねたので時間不足で所期の目的が充分に果せたとはとても言えないが、私個人はこのはじめての海外への旅に深い感銘を受けた。国文学研究資料館で客員教授（外国人研究員）として研究に従事された高名な日本学者が各地で御案内下さり、懇切なお話をうかがうことが出来た。日本でも研究上の御助言を戴いて有難かったが、本国の大学研究室でのお話はまた格別で心にしみた。厚く御礼申しあげたい。

日程の最初の英国ではケムブリッジ大学にピーター・コーニッキー（Peter Kornicki）助教授をお訪ねした（五月一七日）。先生は「欧州所在日本古書総目録」（UNION CATALOGUE OF EARLY JAPANESE BOOKS IN EUROPE）作成のプロジェクトチームをつくって、その幹事として欧州各地の日本古典籍を調べておられる。丁寧な礼儀正しい紳士だが図書館にある先生の研究室の扉には直筆の漢字で「猛犬注意」と書いた札が張ってあった。ユーモアの背景に先生の強烈なる猛勉ぶりが察せられた。ケムブリッジ大学図書館の日本古典の目録も原稿が完成して印刷するばかりになっており「凡例」をみせて戴いた。先生はかつて京都大学で学ばれたが、書名、著者名、書型、版元、刊年等の調査は厳しく、目録に表示する漢字の字体まで厳密に吟味しておられる。大学は試験の時期で休憩時間に学生が芝生に寝そべっていた。「勉強で疲れ果てたか、いやになって抛棄したか、どちらなんでしょうかねえ。」と先生はユーモラスに仰言ったが、同時に、厳しい試験の雰囲気が感じられた。

ケムブリッジはロンドンから汽車（特急）で一時間、沿線の野原に牛や羊が点々とみえた。街には中世そのままの旧い教会の建物が大きくそびえ、中央の広場一杯に市が立っていた。歌野氏は好奇心丸出しで店々をひやかしていた。『欧州所在日本古書総目録』の完成を祈りつつロンドンへ引揚げた。

五月一九日のドーバー海峡は凪で、やがて明るい視野の中に運河や湖やまた点々とテニスコートの様にみえる田園がやさしい姿を現した。優美な風景にほっとした感じでスキポール空港に着いた。オランダでは国立ライデン大学名誉教授フリッツ・フォス（Frits Vos）先生にお目にかかった（五月二一日）。先生は客員教授として国文学研究資料館に勤務され私共が御助言を戴いた方である。御長男がライデン民族学博物館にお勤めになっており、そのお世話でシーボルトコレクションを閲覧させて戴いた。御長男は日本に留学されて、専攻は文化人類学、日本語は勿論、韓国語に堪能である。こういう専門家、またその後輩が

―目　次―

欧州瞥見日録……本田康雄……1
新収資料紹介㉚「保元平治物語」……4
文献資料部業務報告……長谷川強……5
文庫紹介⑮北駕文庫……6
研究情報部事業報告……新井栄蔵……7
整理閲覧部事業報告……本田康雄……9
国文学論文目録データベース試行についてのお知らせ……10
評議員・運営協議員・委員等名簿……11
彙　報……14
第十四回国際日本文学研究集会……16
利用者へのお知らせ……17
平成二年度秋季学会開催一覧……18

育てば、これからは現地の資料調査等の大部分はこの種の研究家に担当して戴いて、日本と連絡をとる様になってゆくのではなかろうか。日本人だけが研究心に凝り固まって笈を背負って遙々と旅をするなどという風景はもう旧くて流行らない。第一、非能率である。日本人以上に日本に詳しい外国人研究者が大勢存在するのだ。

ライデン、アムステルダム、またユトレヒトは夜は十時過ぎまで明るく、乾いた空気は快適で、人々は街の広場に続々と集まり、喫茶店から街路にあふれ出してグループで路上のテーブルにしっかりと座り込み、いつまでも歓談して時間を忘れている。本当に楽しそうで、この宵の憩いのために生きているのかと思われた。広場を掩う雑踏の笑い声には底抜けに解放されたものがあって印象に残った。

ドイツではボッフム大学でブルノ・レーヴィン（Bruno Lewin）先生にお目にかかった（五月二三日）。先生はお元気で創立間もない頃の国文学研究資料館の客員教授であられた頃と少しも変っておられなかった。中央図書館を案内して下さった。大学は恰度、年一回の夏祭りの日で賑やかだった。祭りは午前二時まで続く由、大変なエネルギーだ。かつてレーヴィン先生は、国文学研究資料館が各国語の日本文学・文化に関する研究書、学術論文を集めて国際的なセンターとして活動する様にと期待をのべられた。まだ完全なサービス体制は出来ていないが毎年、十一月はじめに開催される「国際日本文学研究集会」は本年で一四回となり、外国人研究者の利用も増えている。国文学研究資料館は今後ますます、先生の仰言った方向に進むべきであろう。先生がおつくりになった日本語の教科書（Textlehrbuch der Japanischen Sprache）をみせて戴いた。B5版、五百五頁の大著である。語彙の学習、文章の読解、文法そして漢字の指導まで至れり尽せりの教科書である。日本語の例文は論文、論説、実用文、随筆、小説など各方面からバランスよく集められているが、私は昭和初期生まれの一員として第一四課「天皇制の意味」とか第二五課「日本国憲法――第一章　天皇、第二章　戦争の放棄」が先ず目についた。この教科書で若い才能のある学生が指導をうけたら、日本語は勿論、日本の自然、社会、日本人の生活、心理がどれほど深く理解されることか。文化の国際交流の将来に私はますます明るい期待を抱いた。

ドイツではこのボッフム大学をふくめ、デュッセルドルフ、ボン、ケルン、またハンブルグ、リューベック等すべてハンブルク大学講師・佐藤マサ子さんに御案内戴いた。佐藤さんはお茶の水女子大学大学院卒、受託大学院生として国文学研究資料館に在籍されたことがある。間もなく首都でなくなるかもしれないからとボンを見学し、また大きな大聖堂のある夕暮れのケルンを訪ねた。悠然とよどみ流れるライン河を背景に街の中心部にそそり立つ大聖堂の偉観、その巨大さ、旧さに驚かされた。大聖堂に隣接して音楽堂があり市民が集まってくる。ここは新人のデビューの場で新しい意欲的な作品の演奏が歓迎され、すぐに新聞で批評される。宗教と芸術が混然一体となって市民大衆の生活と溶けあっている。そして、この大聖堂と音楽堂をとり囲む様にヨーロッパ各地でみられる広場が展開し、人なつかしい楽しい雑踏が深更まで続くのである。ふと「市中は物のにほひや夏の月」（「猿蓑」凡兆）の句を想い起したのはソーセージとビールの酔いのせいか。

ハンブルグではハンブルグ大学教授ローランド・シュナイダー（Roland Schneider）先生の御歓待をうけた。御自宅で中国学研究者でもあられる奥様の心尽しの料理を御馳走になった。また、先生が特に、御書斎をみせて下さったのは有難かった。国語学の専門書、辞書、日本古典の研究書・テキストが広間の壁面一杯に排架されており先生の猛勉強ぶりがうかがわれた。

ハンブルグ大学では日本研究セミナー（研究科）の先生の研究室で詳しいお話をうかがった（五月二五日）。先生には国文学研究資料館の客員教授をなさっていた時に親しくして戴いたのだが、当地の日独協会の会長でもあられ話題は豊富、日本文学研究や学生の教育について種々おうかがいした。来週はこの研究室の学生を連れて東ベルリンへ行きフンボルト大学と交流の会を持つと本当に嬉しそうに話しておられた。

日本学研究室兼開架図書室は中

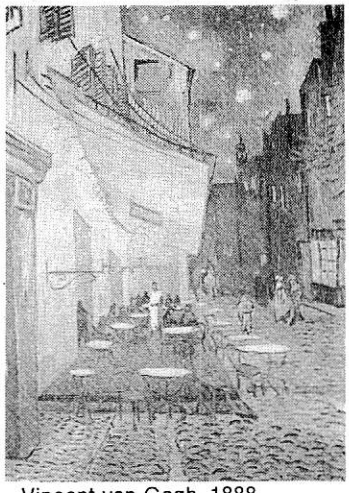
央の通路を境目にして半分が西欧各国語で書かれた研究書、翻訳、等、他の半分に日本語で書かれた研究書、テキスト、辞書また漢籍が並べられており、奥の一室に助教授のクラウス・フォルマー（Klaus Vollmer）さん、また前記の佐藤さんの席があった。シュナイダー先生のお話によれば、ハンブルグ大学の学生は本専攻の他に二つの副専攻を学習しなければならない。修士論文は本専攻で提出するが副専攻も必須で厳しい試験がある。本専攻が日本文化の学生も副専攻として他の学科二つを履習することになる。「副専攻を通してセオリーが得られ、理想的に行った場合には本専攻の中にそのセオリーが含まれます。」と述べられた。学生達が日本文学、日本語学の細部について徹底した指導を受けるのと同時に特にこの「セオリー」について厳しく鍛えられている様子が察せられた。学生のペトリコフスキー（Pietrykowski）さんに会った。彼女はポーランドの人で以前、二葉亭四迷のポーランドの作品からの翻訳をテーマとして国文学研究資料館で研究されていた。日本で病気になって帰国されたのだがまだ疲れている様子にみうけられた。この。欄をかりて、はやく元気になられる様、激励の言葉を贈る。

ハンブルグでは快晴に恵まれ、空は日本の夏空の様に青く入道雲が動き日差しが暑い程だった。広大なエルベ川をヨーロッパ各都市やソビエトの大きな船舶がゆっくりと動くのを眺めながらこの港の都市の旧い歴史を想った。

最後にお訪ねしたのは仏国。夕刻パリに着いた。凱旋門近傍のホテルからシャンゼリゼの大通りをコンコルド広場まで散歩した。セーヌ川の遊覧船のあかりが流れる様できれいだった。あとで偉い先生から教わったのだが、遊覧船に乗れば川岸が高くて街の風景はみにくい由である。私共の様に川岸から遊覧船を遊覧するのが国際的通人だと自惚れた。パリの建造物は旧い王朝以来の首都だけあってさすがに厳めしく貫禄があるが、道路一杯になって走る車は猛スピードでライトの流れは目まぐるしく、交通信号はあるが車も人も守っているのかどうか、何度も危い目にあった。「赤信号、みんなで渡れば怖くない」というギャグが有名になるのは日本人の大多数が交通信号をよく守り、警察を信用して自衛を心がける必要がないからだ。ここではいつも適当にみんなで、時には小走りで渡っているのだから「赤信号、みんなで渡るパリの宵」と下手な川柳にしかならない。

翌日（五月二九日）、パリ第七大学教授ジャクリーヌ・ピジョー（Jacqueline Pigeot）先生にお目にかかった。先生は昨年、客員教授として国文学研究資料館にお勤めになり、御伽草子を中心に研究された。公開講演会も引受けて下さった。研究上でも、また個人としても〝旅〟を好まれるこの先生に私共の欧州旅行の最後にパリでお話をうかがうことが出来て本当によかった。パリ第七大学を案内して戴いた。広い開架図書室に日本語、中国語などで書かれた東洋に関する研究書、テキスト、辞書がきれいに並べてあった。学生さんの一人はベトナムから来てここでベトナムの歴史と文学を調べておられる由、またピジョー先生の研究室で会って話をした学生さんは日本の現代の文学・文化研究として夏樹静子を研究し、近く甲南女子大学へ留学するとのことであった。恰度、学期試験の時期でピジョー先生は午前二時までかけて試験問題を作ったといって張り切っておられた。教室も一寸、のぞいたが試験直前の緊張のためこわい顔になった学生たちが教室一杯に坐りこんでいた。

ピジョー先生は御自宅のコピー機で教材を作り授業の度に配っておられる。私の日本の大学での経験ではプリント教材を配る際に欠席した学生――試験日以外は多くの学生は欠席している――が何週間も、時には一か月おくれてバラバラとプリントを貰いにくる。貰いにも来ない学生よりはいくらかましで感心だが、気の毒ながらその時プリントはなくなっている。



Vincent van Gogh, 1888
（ゴッホ祭にて）

愚問だとは思ったがその点を先生にお尋ねしたら、「必ず友人が受取って欠席者に渡します。」と仰言った。学生同士の横のつながりが緊密な様だ。日本では遊び仲間の個人的な、グループ別のおつきあいはしつこく、からまり合っているが、仕事の上ではこんな「友人」はいない。成績が悪ければ落第する厳しい授業とこの「友人」の組織を理解しつゝ、教室をみて廻った。しかし、学術上の質問でなく、プリントの配り方など、こんなつまらぬことをうかがうためにフランスまで来たのかと、学者のピジョー先生に対してあとで恥かしい気がした。

パリの街も午後九時過ぎまで明るくて人々は悠然と広場の路上の椅子で休憩している。本当にいきいきとして自由で屈託がない様にみえる。私共の短かい欧州の旅はこのパリの宵で終る。時間不足であわただしくとてもまともな感想を得る様な余裕はなかった。しかし、明るい夜の広場の人ごみで飲むビールの味は素晴らしく時間の経つのを忘れた。

新収資料紹介㉚

保元平治物語

ここに紹介する『保元物語』と『平治物語』は各三冊本であるが、一帙にセットされているため、整理番号も一括して扱われる。

一九八八年のクリスティーズ・オークションに出品され、古書肆を経由して、国文学研究資料館の蔵に帰したものである。

書誌について。外題はそれぞれ「保元」「平治」、各冊に上中下がつく。題簽左肩、本文と同筆。内題は「保元物語」「平治物語」。整理番号99-74・1-6。貴重書に指定。室町後期書写。保存は良好。藍色表紙、雷文繋ぎに草花唐草の押型文。袋綴。楮紙。各三巻、全六冊。縦二六・八、横二〇・五センチ。遊紙は表表紙のみ。本文一面十行。漢字平仮名交じり文。異本との校合多し（本文と同筆だが、一部に別筆あり）。『保元物語』上の表紙見返しに白河院から後鳥羽院に至る天皇の系図あり。『保元物語』上と『平治物語』中に、本文校合の付センあり。巻首右袖に宝玲文庫の蔵書印、巻尾隅に月明荘、拝土蔵書の朱印あり。

蔵書印から、ホーレー文庫旧蔵で、その後ハイド・コレクションに渡り、弘文荘が仲介していたことが知られる。ホーレーの蔵書印は三種類あるが、その内、書体を崩した朱印のものである。ホーレーの名は西洋人の古典籍収集家としてつとに名高く、反町茂雄『蒐集家・業界・業界人』（八木書店・一九八四年）の「大コレクター、フランク＝ホーレー」に詳しい。その七四頁に「保元平治」の名がみえる。ハイド・コレクションもまた質の高い収集として著名であり、これも反町茂雄『日本の古典籍』（八木書店・八四年）の「ハイド＝コレクションの日本稀覯書群」に詳しい。その三〇八頁にみる「保元平治物語」が本書であり、ホーレー文庫の解説にみるものと同一であろう。

本文に関して簡略にふれておくと、『保元物語』は陽明文庫の甲本（陽明叢書・所収）に等しい、ただし、結末の為朝が伊豆大島に渡り諸島を平定するが、最後は官軍に攻められ、自害する一連の話題は京大図書館本系統によったものと思われる。

一方、『平治物語』は古態本（陽明文庫本・学習院本系）と金刀比羅本系との混合本と思われる。常葉都落ちの日付と頼朝捕縄、父供養の日付とが矛盾するのも、両系統の本文をつなぎ合わせた結果による矛盾であるようだ。古態本混入の度合いはかなり高く、とくに下巻の源平争乱から頼朝の死にいたる後日譚の部分など、そっくり古態本系統に依拠しているとみなせる。

いずれも、種々の本文をつなぎ合わせた混態本として貴重であり、巻ごとに本文系統を異にする複雑で流動的な『保元物語』『平治物語』の本文の形成過程をさぐる上で無視できない、貴重な伝本と思われる。本文研究の進展に益するところ少なからぬ一本といえよう（本文に関して日下力氏の示教を得た。また『平治』の方は、氏による岩波新古典の校合に使用される予定である）。

また、一度海外に流出しながら再び日本に舞い戻る、数奇な運命をたどった本の一つとして興味はつきないものがある。

（文献資料部　小峯和明）

文献資料部事業報告

長谷川　強

本年度は第一回の収集計画委員会を五月十七日に開き、調査員会議（総会）は同二十九日、宮客員教授の講演、当館蔵マイクロ資料目録CD－ROMのデモンストレーション、有志による懇親会と多数の御参加を得て盛会裡に終了した。

この夏は記録破りの暑さとかで、九月半ばの現在も残暑はおろか猛暑に閉口しているが、夏休みには調査に収集に積極的に御協力いただき、その成果が続々届きつつある。感謝の他はない。

平成元年度国文学文献資料調査・収集の概況

一、調　査

現年度は、本年三月末までに左の七六箇所（予備調査＝＊印を含む）の所蔵資料計八一〇五点を調査した。

北海道東北地区（順不同、敬称略、一部略称、以下同じ）

函館市立函館図書館・伊達市開拓記念館・弘前市立弘前図書館・盛岡市中央公民館・秋田県立秋田図書館・昭和町郷土文化保存伝習館＊・東北大学附属図書館（狩野文庫）・宮城教育大学附属図書館・仙岳院・酒田市立光丘文庫・福島県立図書館

関東地区

茨城県立歴史館・彰考館・東京芸術大学附属図書館・東京芸術大学附属図書館（脇本文庫）・宮内庁書陵部・法政大学能楽研究所（鴻山文庫）・福田秀一・内閣文庫・東洋文庫・東京都立中央図書館（加賀文庫）・東京都立中央図書館（特別買上文庫）・東京都立中央図書館（東京誌料）・尊経閣文庫・大倉精神文化研究所

中部地区

新潟大学附属図書館・糸魚川市歴史民俗資料館＊・富山県立図書館（中島文庫）・高岡市立中央図書館・金沢大学附属図書館・加賀市立図書館（聖藩文庫）・石川県立図書館（李花亭文庫）・信州大学教育学部・上田市立図書館（花月文庫）・上田市立図書館（花春文庫）・諏訪市立図書館・名古屋市蓬左文庫（尾崎コレクション）・名古屋大学附属図書館（神宮皇学館文庫）・愛知県立大学附属図書館・愛知大学図書館（菅沼文庫）・中京大学図書館・大須文庫・西尾市立図書館（岩瀬文庫）・神宮文庫

近畿地区

西教寺・水口町立図書館・京都大学文学部（穎原文庫）・蘆庵文庫＊・大和文華館・大阪市立中央図書館・園田学園女子大学図書館（吉永文庫）＊・温泉寺

中国四国地区

鳥取大学附属図書館・津和野町立津和野図書館＊・岡山大学附属図書館（池田文庫）・広島市立中央図書館（浅野文庫）・三原市立図書館・岩国徴古館・西円寺・萩市立図書館・益田家・鎌田共済会図書館・善通寺・香川某家（俳書）・大洲市立図書館・四国女子大学附属図書館（凌霄文庫）・高知県立図書館（山内文庫）

九州地区

佐賀某家・多久市教育委員会（多久市郷土資料館）・島原図書館（松平文庫）・長崎某家（俳書）・大村市立史料館・専想寺

海外

イェール大学バイネッキ図書館・イェール大学スターリング記念図書館

二、収　集

本年三月末までに左の四二箇所の所蔵資料計六四五八点を収集した。

北海道東北地区

八戸市立図書館・盛岡市中央公民館・秋田県立秋田図書館・酒田市立光丘文庫

関東地区

茨城県立歴史館・矢口丹波記念文庫・永井義憲・早稲田大学図書館・宮内庁書陵部・法政大学能楽研究所（鴻山文庫）・福田秀一・東洋文庫・東京都立中央図書館（加賀文庫）・尊経閣文庫

中部地区

金沢市立図書館（稼堂文庫）・名古屋市蓬左文庫（尾崎コレクション）・鶴舞中央図書館・中京大学図書館・大須文庫・新城市教育委員会（牧野文庫）・西尾市立図書館（岩瀬文庫）・神宮文庫・後藤重郎

近畿地区

西教寺・京都大学文学部（穎原文庫）・陽明文庫・立命館大学図書館（西園寺文庫）・園部町教育委

員会（小出文庫）・大和文華館・住吉大社・浄照坊・大阪女子大学附属図書館・温泉寺

中国四国地区

広島市立中央図書館（浅野文庫）・岩国徴古館・多和文庫・香川某家（俳書）・今治市河野美術館・高知県立図書館（山内文庫）

九州地区

熊本大学附属図書館（北岡文庫）・臼杵市立臼杵図書館

海外

カリフォルニア大学バークレイ校右の内国内の分については既製のマイクロフィッシュの購入を当てたものを含んでいる。

平成二年度文献資料調査・収集計画

本年度は調査一〇四箇所（海外を含む）一〇三二〇点、収集五三箇所（同）五五九九点の計画を立て、順次実行に移している。

海外資料の調査・収集

本年度は在仏資料の予備調査として、科学研究費補助金（海外学術研究）により、パリ国立図書館等の調査を九月二十四日より一週間、長谷川、小峰が出張して行なう計画を立てている。なお在米特別調査員によるカリフォルニア大学ロサンゼルス校の調査予定もある。

収集は、カリフォルニア大学バークレイ校、イェール大学バイネッキ図書館に出願済みである。

第四室

本年度は客員教授として実践女子大学文学部の宮次男教授をお迎えし、絵画資料の調査・収集面での御助力をお願いしている。併任助教授には、前期は広島大学文学部の位藤邦生助教授、後期は山形大学教育学部の寺島恒世助教授にお願いしている。

その他

地区会議は、近畿地区は十月十九日に京都市で、九州地区は十一月十五日に福岡市で開催の予定。

「古典籍学の確立・体系化のための研究」のテーマで、特定研究を館外の方々と共同で始めることになり、十月初めに第一回の会合を予定している。

四月一日付けで岡助教授が教授に昇任、また山本千幸補佐員はこの度結婚、郷古と姓が改まった。

本年度も変らぬ御指導、御協力を切にお願いするものである。

（文献資料部長）

文庫紹介⑭

北海学園大学

北駕文庫

北海学園大学附属図書館所有の特殊コレクション〝北駕文庫〟は明治四十四年に、皇太子殿下（大正天皇）の北海中学校行啓記念として、時の校長浅羽靖が私有の全蔵書を移して設立したものである。

浅羽靖は大蔵官僚の出。明治二十年私立北海英学校長に就任、以後二十七年間に亘り学園の経営に力を尽し、傍ら私費を投じて四万巻に余る和漢書の蒐集に努めた。また浅羽農場を興し、製塩業を創め陸海産物取引場を経営し、拓殖銀行を創設し、交通機関の整備等、実業家としても北海道の開発に功績を残した。

蔵書の概要（昭和二九年南鉄蔵氏の調査による）を示すと、三一〇三四冊、主要軸物一一九点、内訳は、詔勅二六、神祇二九九、宗教九三一、経書一九五四、国史二七三四、漢史二九五五、外国史一一七、子類三一〇、文学語学一七六〇、詩文集策議二五二四、叢書三六三二、地理一六〇九、法律一六七〇、社会八四五、教育七三二、哲学八〇、農書五〇一、商工交通三五二、工学二〇四、科学一〇二七、林学四四、兵書一九五九、生理衛生一四三五、水産一三三、辞書八六四、美術四五六、音楽三二、工芸三九、地図二六八、遊戯・娯楽三七、雑書二四〇、黒田開拓長官（北海道及樺太関係）三〇二、桂将軍（兵書戦史）四四四、小杉博士（楓邨旧蔵書）三二九、図書目録六四、営業目録（八九）、書三六。上記数字は冊数（タイトル数ではない）。写本・版本の古典籍に明治期の活字本を合せ所蔵するが、江戸期のものに資料的価値の高いものが多く認められる。個々の書目については同文庫発行の「行啓紀念北駕文庫蔵書略目録（第一巻）」（大正三年刊　二〇四頁）を参照されたい。

当館では昭和四十九年に二五二点の文学関係書をマイクロフィルムで収集したが、今年度も二〇〇点の収集を行う。

〔所在地〕

札幌市豊平区旭町四―一―四〇

北海学園大学附属図書館

電話　〇一一―八四一―一一六一

（文献資料部　岡　雅彦）

研究情報部事業報告

新井栄蔵

昭和四十九年に当館に赴任されて以来、当館の研究・業務、特に国文学研究における情報処理システム活用の分野の研究・業務の確立と発展に尽力された山中光一前研究情報部長が、平成二年三月をもって退官され、名誉教授の称号を授与された。なお、本年度から部長の職は、わたくしが担当することとなった。

今回は、平成元年度の事業報告であるが、現在すなわち、平成二年度の研究情報部の体制についてここにまとめて報告しておく。

研究情報部は、従来三室で構成されていたが、一室が増設され、二室の室名が変更されて、次の四室で構成されることとなった。

情報資料室（旧　情報室）
情報分析室（旧　編集室）
データベース室（新設）
情報処理室

従来、館内措置により設置したデータベース準備室で担当してきた国文学論文目録データベースは、順次、データベース室に移管される。他の室の担当は、従来通りである。

情報分析室は、末澤明子助手が転勤した後任として佐々木孝浩助手が着任した。

以下は、平成元年度の研究情報部三室の事業の報告である。

情報室

情報室では、館報発行、新聞情報の収集、国際日本文学研究集会の開催業務を担当しており、順調な進捗をみた。

新聞情報の収集は、昭和四九年以来、国文学に関係する新聞記事を切りぬき、ファイルしているものであるが、初期のものの変色・劣化が著しく、保存の永続化を計るための方途を探りはじめた。

国際日本文学研究集会は十一月十日、十一日に開催、約九〇名の参加者があり、盛況であった。

館報も例年どおり、二回の発行を終えることができた。

編集室

『国文学年鑑』（昭和六三年版）を三月末刊行した。

既報のように六十年版から雑誌紀要論文目録を、六一年版からは加えて新聞所載論文目録、単行本目録、訃報をＣＴＳ（コンピュータタイプセッティング）化していくことによりマスターテープによるデータの蓄積を行なってきている。今年鑑ではそれ以外の部分についてＣＴＳ化することを避け、すでに今回で四回目を数えるＣＴＳ編集・校正についてさらに能率を上げるべくその作業手順の合理化に腐心した。

とはいえまだ改善すべき点は多く、今後当室と印刷所・出版者との作業分担について活版時代とは別の体制が模索されるべきである。

活版印刷をむねとしてレイアウトの工夫がなされてきた『国文学年鑑』をそのまま全く印刷概念の異なるＣＴＳに移すことの困難はいまだに作業の各所で生じている。本文の字面作りだけでも、従来なら簡単に加朱するのみで済んだポイント変化を校正紙上で指定することの複雑なこと、右寄せ・左寄せ・割註の困難なことなど、活版時代では考えられなかった問題がある。その多くがあらかじめ様々な場合を考慮して設定すべき編集プログラム上の問題にかかり、例外的なケースの発生した時の善後策は活版以上の手間がかかるというジレンマが今年度も多発した。また昨年と同じく一覧・索引類をコンピュータ支援のもとに本文から抽出する方式で作製したが、その配列のためのカナ付けテーブルをデータ化する会社と本文をデータ化する印刷所とが異なるために文字コード等の不一致によりうまく配列できないという予期せぬ事態その他により日程の遅延を招いた。以上の如きは現教官のみでは対応できない純粋な印刷技術上の問題でもある。また昨今の論文執筆者の急激な増加によって執筆者辞書の完備は困難を極め、執筆者索引の機械的作製は予定していたように円滑に行われなかった。これらの点に鑑み、次年度からＣＴＳに即した形態を目途とした、『年鑑』そのものと編集作業と両方の根本的な改善を期している。

情報処理室

平成元年度事業は、以下のように実施した。

(一)目録作成

定常的な業務として、

①国文学研究資料館蔵マイクロ

資料目録（一九八九）

②国文学研究資料館蔵逐次刊行物目録（一九九〇）

の版下作成を行った。

また、古典籍総合目録（冊子体）、マイクロ資料目録書名索引のCTSによる出版への対応を行った。昭和六三年度開発した古典籍総合目録データマスタファイル作成システムの運用とその改善に相当の作業量を要した。

(二)データ入力等

上記目録用データ及びその他のデータ合せて八五、六八七件のデータ入力を行った。

また、業務用として一〇〇字、研究用として九六字のJIS外字の作成を行った。

(三)システム開発

以下のシステム開発を行った。

①論文目録データベースのオンライン検索システム

昨年度に行った概要設計・基本設計に基づいて詳細設計・プログラム開発を行った。

②データベース公開のための課金集計システム機能拡張

論文データベースの公開に伴い、従量制課金方式への対応等の機能拡張のためのシステム開発を行った。

③古典本文データベースデリバリサービスシステム。

本文データベースを構築する際の進捗管理システムと大型計算機によるオンラインでのデータデリバリサービスの試行を目的としたプロトタイプシステムの開発を行った。

(四)学術情報ネットワークへの加入

東京工業大学まで専用線を設置し、学術情報ネットワークに新たに加入した。七大学大型計算機センターについてはDDX―Pから接続替えを行った。また、学術情報ネットワーク加入に伴い、N―1FEPをHITACH20からD9200へ入換えた。

(五)「国文学とコンピュータシンポジウム」の開催

平成二年二月二〇日に第一回「国文学とコンピュータシンポジウム」を開催した。国文学とコンピュータの係わりに的を絞り、事例報告を通じて諸問題を明確化し、その解決策を探るという目的で四件の講演とパネルディスカッションが行われた。当館関係者を中心に国文学、情報工学の研究者八〇余名の参加があった。

(六)人文系共同利用機関情報システム連絡会

今年度は二回開催した。

一回目は国立民族学博物館で開催し、主にJIS外字の取り扱いについて、二回目は国立歴史民俗学博物館で開催し、データベース公開について意見交換を行った。

また、その他各種連絡会・委員会へ出席し、連絡調整並びに当館事業のPRに当った。

(七)データベース作成等

科学研究費により以下のデータベースの作成を行った。

①古典本文データベース

岩波古典文学大系全一〇〇巻（約六〇〇作品）のうち三年計画の二年次として一一四作品のデータ作成を行った。また、古典本文データベースのCD―ROMバージョンを試作し、評価を行った。

②原文献資料データベース

「枕草子」を中心に一一、三二三件の画像データベースを作成した。なお、諸般の情勢により、実運用を目指したシステム開発は当面保留することとした。ただし、研究開発は今後も継続して行っていく予定である。

(八)その他

昭和六三年度に作成した「マイクロ資料目録」CD―ROMバージョンの利用環境の調査を行い、製品化の見通しを含めて評価を行った。概ね、研究活動に有効であるとの評価を得た。また、今後の当館情報処理システムのあり方として、ホストコンピュータによる大型データベースの形成と利用をさらに推進する事が重要である。さらに、国文学者の個人対応の情報システム、すなわちプライベートデータベースシステムの開発が望まれており、多様な情報メディアを駆使したサービスとシステム提供についての検討を開始した。

（研究情報部長）

整理閲覧部事業報告

本田康雄

当部が担当する業務（資料の受入、整理、保存、利用サービス及び参考業務、公開講演会の開催、展示等）は、平成元年度も順調に進展した。

保存用ネガフィルムの外部保管委託は、昭和六十二年度収集分九九八リールを追加委託し、総計一五、〇七一リールとなった。例年実施している監査に際しては、監査実施要領に基づき当部から検査員を派遣し、保存用ネガフィルムの保管状況等を検査した。

部内の異動は平成元年四月一日付の異動で欠員となっていた参考室助教授に、平成二年四月一日付で帝塚山学院大学助教授の佐伯眞一氏を迎えた。

(一)整理閲覧室

(1)資料の受入

平成元年度の受入資料数は、マイクロ資料（ロールフィルム七八一リール、紙焼写真本三、二三一冊）、図書（二、一八三冊）、逐次刊行物（継続受入雑誌一、七七〇誌—全所蔵タイトル数三、三九三タイトル）、雑誌製本（六二七冊）であった。その結果、平成元年度末での全蔵書数は、別表のとおりとなった。

(2)マイクロ資料の整理

『国文学研究資料館蔵マイクロ資料目録一九八九年』版の刊行を行った。又、これまでに刊行されたマイクロ資料目録の一九七六年—一九八八年版（計一二冊分）の累積書名索引である。『マイクロ資料目録書名索引』を刊行した。

(3)図書資料の整理等

約二、五〇〇冊の新規受入れ図書の整理を行い、カード目録を作成した。帙作成、補修を例年通り行った。

(4)古典作品典拠ファイル作成事業

五年計画の本事業が昨年度で終了したのをうけて、平成元年度より特定研究経費により継続されることになった。岩波書店『国書総目録』（本編八巻、所在情報等を除く）のデータベース化が事業の中心であり、平成元年度は約八五、〇〇〇件のパンチ、校正を行った。累積では約三二、〇〇〇件に達し、全体量の$\frac{1}{3}$が機械可読化されたことになる。今後はヨミの付与、著者名のコントロール等、パンチ・校正に引き続く一連の作業に全力を尽したい。

(5)古典籍総合目録作成事業

平成二年二月二六日に第一巻、三月二六日に第二巻、第三巻（索引）が、予定通り出版された。書誌データ数、約九万一千点が収録されている。出版にこぎつけるまでに直面した、さまざまな問題点を整理し、今後のデータ作成作業に生かしていきたい。

(6)閲覧業務

平成元年度は、来館利用による入室者数が七、六三九人（一日平均二八人）、文献複写が一八、六一四件（一日平均六九件）であった。前年度に比べて、入室者数が四％、文献複写件数が一〇％とそれぞれ減少した。この複写件数の減少は、四月からの消費税導入に伴う複写料金の値上げが影響したものと思われる。利用登録者は、累計（三月末まで）で二二、八二六人に達した。また相互利用（郵送による文献複写・貸出）の申込受付は、一、九二四件で、前年度に比べて一四％減少した。

平成元年度から、当館所蔵原本（写本・版本）のマイクロ化事業がスタートし、三月末までに約十五万コマ・七一六点の撮影が終了した。

また平成元年度は、閲覧関係の施設整備の一環として、十一月に閲覧室入口のドア工事（段差解消）、十二月に書庫の工事（電動書架の点検、修理）とリーダープリンターの機種更新、三月に利用案内ガイドシステム（静止画像による利用案内）の導入をそれぞれ実施した。

別表　**所蔵資料統計**

（平成２年３月末現在）

資料種別		点数	冊(リール)数
マイクロ資料	マイクロフィルム*	90,699点	19,868リール
	マイクロフィッシュ	5,415点	18,644枚
	紙焼写真本	58,195点	48,541冊
図書（古書及び新刊書）		26,793点	78,460冊
逐次刊行物		3,393誌	95,181巻号冊
寄託図書		141点	178冊

※他に紙焼写真による収集がある。

なお、例年通り、四月末から五月上旬にかけて資料のくん蒸、三月末に蔵書点検を実施した。

今後も、サービス向上と閲覧室の整備、改善に努めていきたい。

(7)マイクロ資料の加工

作業用ネガフィルムの作製を九八一リール行った。閲覧用ポジフィルムは九八八リール作製した。紙焼写真本については、多和文庫等五二六リールの焼付を行い、三、二三一冊の製本を行った。

(二)参考室

(1)参考業務

日常業務として、参考質問の受付・回答に従事し、参考図書の充実と参考開架閲覧室の維持にあたった。

(2)公開講演会及び展示会

国文学の普及業務として、次のとおり公開講演会・展示会を開催した。

●公開講演会

第30回（6月24日、於当館）「御伽草子の「空間」―都・鄙・異境など―」ジャクリーヌ・ピジョー（当館客員教授）、「百人一首の世界」神作光一（東洋大学学長）。

第31回（10月21日、於札幌市・北海道大学学術交流会館）「遠景の人たち―夏目漱石の世界―」亀井秀雄（北海道大学教授）、「世阿弥について」小山弘志（国文学研究資料館長）。

●第12回夏期公開講演会「近世演劇―歌舞伎と人形浄瑠璃」（7月27日～29日、於当館）

27日「元禄期の江戸浄瑠璃」鳥居フミ子（東京女子大学教授）、「南北劇の構図」服部幸雄（千葉大学教授）。

28日「近松の「義理」」原道生（明治大学教授）、「近松の発見した世話〈悲劇〉の意味―「心中天の網島」によって―」廣末保。

29日「元禄期の「芝居小屋」」守屋毅（国立民族学博物館助教授）、「歌舞伎の台帳」土田衛（大阪女子大学名誉教授）。

●第18回特別展示

「新収資料展―昭和60～62年度期」（11月1日～15日。『国文学研究資料館特別展示目録12』を刊行）

●常設展示

第41回「和書のさまざま」（4月17日～7月1日）。

第42回「平安朝物語」（7月17日～10月14日）。

第43回「江戸から明治へ」（12月7日～3月24日）。

なお、第12回夏期公開講演会の筆録集である『近世演劇―歌舞伎と人形浄瑠璃（国文学研究資料館講演集11）』を刊行し、大学図書館等への寄贈のほか、希望者にも配布している。

（整理閲覧部長）

国文学論文目録データベース試行についてのお知らせ

データベース準備室

国文学研究資料館報　第三十四号でお知らせしましたように、当館では、国文学論文目録データベースのオンラインサービスの開始に向けての試行を実施しております。

当データベース作成とオンラインサービスの基本的な問題は、おおむね解決できて試行に踏みきりましたが、実際の公開までには、なお、解決しなければならない付帯的な問題が、データベース作成の面でも、オンライン検索の面でも、残っています。

現在、館内で検索の試行を行っており、また、他機関の協力を頂きそれらの機関からの検索の試行を行っています。その過程でも問題点が出てきており、それを一つ一つ解決してきております。

近々、館外にモニターを依頼して検索の試行を行う予定です。その場合も、いろいろの問題点が出てくると考えております。これらも一つ一つ解決してゆこうとしております。

やがて今年度から新設されるデータベース室の業務実施の諸条件が整備され次第、国文学論文目録データベース関係の業務は、データベース準備室からデータベース室に移管され、より整った体制で運営されることになりますが、そのことを前提として、現在の見通しでは、特に問題が生じないかぎり、平成四年四月には、オンラインサービスの一般公開に踏み切れる条件を確立したいと考えております。

国文学研究資料館評議員

任期　平成2年7月1日～平成4年6月30日

阿部　秋生　東京大学名誉教授・実践女子大学名誉教授
秋山　虔　東京女子大学文理学部教授・東京大学名誉教授
有馬　朗人　東京大学長
井内　慶次郎　東京国立博物館長
猪瀬　博　学術情報センター所長・東京大学名誉教授
今井　源衛　梅光女学院大学文学部教授・九州大学名誉教授
上山　春平　京都国立博物館長・京都大学名誉教授
小田切　進　立教大学名誉教授・日本近代文学館理事長
加藤　周一　東京都立中央図書館長
京極　純一　東京女子大学長・東京大学名誉教授
児玉　幸多　学習院大学名誉教授
斎藤　正　日本芸術文化振興会会長
阪倉　篤義　甲南女子大学文学部教授・京都大学名誉教授
田中　裕　大阪大学名誉教授
土田　直鎮　国立歴史民俗博物館長・東京大学名誉教授
坪井　清足　大阪文化財センター理事長
林　大　国立国語研究所名誉所員
秀村　選三　久留米大学比較文化研究所教授・九州大学名誉教授
尾藤　正英　川村学園女子大学文学部教授・東京大学名誉教授
宮川　満　大阪教育大学名誉教授
新井　栄蔵　国文学研究資料館研究情報部教授
岡　雅彦　国文学研究資料館文献資料部教授
鶴岡　実枝子　国文学研究資料館史料館教授
長谷川　強　国文学研究資料館文献資料部教授
本田　康雄　国文学研究資料館整理閲覧部教授
松野　陽一　国文学研究資料館文献資料部教授
森　安彦　国文学研究資料館史料館教授
安永　尚志　国文学研究資料館研究情報部教授

国文学研究資料館運営協議員

任期　平成2年8月1日～平成4年7月31日

有吉　保　日本大学文理学部教授
伊藤　正義　大阪市立大学文学部教授
石井　進　東京大学文学部教授
稲賀　敬二　放送大学ビデオ学習センター長・広島大学名誉教授
大口　勇次郎　お茶の水女子大学文教育学部教授
久保田　淳　東京大学文学部教授
小林　清治　東北学院大学文学部教授・福島大学名誉教授
佐竹　昭広　成蹊大学文芸学部教授・京都大学名誉教授
平澤　五郎　慶應義塾大学附属研究所斯道文庫長・同教授
水谷　静夫　東京女子大学文理学部教授
浅井　潤子　国文学研究資料館史料館教授
浜野　卓也　山口女子大学文学部教授
原　道生　明治大学文学部教授
安田　尚道　青山学院大学文学部教授

国文学文献資料収集計画委員会委員

任期　平成2年4月1日～平成3年3月31日

伊藤　敬　藤女子大学文学部教授
表　章　法政大学文学部教授・能楽研究所長
平林　盛得　宮内庁書陵部図書調査官
冨士　昭雄　駒澤大学文学部教授
藤岡　忠美　昭和女子大学大学院教授
山下　宏明　名古屋大学文学部教授

任期　平成2年4月1日～平成4年3月31日

荒木　尚　熊本大学文学部教授
石川　真弘　佛教大学文学部教授
木村　正中　学習院大学文学部教授
服部　幸雄　千葉大学文学部教授

文献目録委員会委員

任期　平成2年4月1日～平成4年3月31日

池内　輝雄　大倉女子大学短期大学部教授
揖斐　高　成蹊大学文学部教授
遠藤　宏　成蹊大学文学部教授
久保田　淳　東京大学文学部教授
小島　孝之　立教大学文学部教授
小町谷　照彦　東京学芸大学教育学部教授
滝藤　満義　横浜国立大学教育学部教授
田中　榮一　新潟大学教育学部教授
野山　嘉正　東京大学文学部助教授

情報処理システム運用委員会委員

任期　平成2年4月1日～平成4年3月31日

石田　晴久　東京大学大型計算機センター教授
稲岡　耕二　上智大学文学部教授
井上　如　学術情報センター教授
大橋　琢也　国立国会図書館総務部情報処理課長
杉田　繁治　国立民族学博物館第五研究部教授
土田　衛　大阪女子大学名誉教授
照井　武彦　国立歴史民俗博物館情報資料研究部教授
西村　恕彦　東京農工大学工学部教授
濱田　啓介　京都大学教養部教授
星野　聰　京都大学大型計算機センター教授
堀内　秀晃　青山学院大学文学部教授
水谷　静夫　東京女子大学文理学部教授
村上　學　名古屋工業大学工学部教授

国際日本文学研究集会委員会委員

任期　平成2年4月1日～平成4年3月31日

アラン・ターニー　清泉女子大学文学部教授
粂川　光樹　明治学院大学国際学部教授
芳賀　徹　東京大学教養学部教授
平岡　敏夫　筑波大学文芸・言語学系教授
福田　秀一　国際基督教大学教養学部教授
山下　宏明　名古屋大学文学部教授

共同研究委員会委員

任期　平成2年4月1日～平成4年3月31日

稲賀　敬二　放送大学広島ビデオ学習センター長
大曽根　章介　中央大学文学部教授
曽倉　岑　青山学院大学文学部教授
鳥越　文蔵　早稲田大学文学部教授

中野三敏　九州大学文学部教授
水原一　駒沢大学文学部教授

古典籍総合目録委員会委員

任期　平成元年4月1日～平成3年3月31日

浅野次郎　東京大学附属図書館事務部長
雨森弘行　学術情報センター事業部長
菊地勇次郎　大正大学文学部教授
坂下精一　国立国会図書館図書部司書監
柴田光彦　跡見学園女子大学文学部教授
堤精二　お茶の水女子大学文教育学部教授
森川彰　梅花女子大学文学部教授

国文学文献資料調査員

任期　平成2年4月1日～平成3年3月31日

〔北海道・東北〕

家井美千子　岩手大学人文社会科学部講師
石井由紀夫　北海道教育大学釧路分校助教授
加藤幸一　奥羽大学文学部講師
上岡勇司　北海道教育大学札幌分校教授
菊地仁　山形大学人文学部助教授
今野厚子　尚絅女学院短期大学助教授
佐藤晃　山形女子短期大学講師
鈴木則郎　東北大学文学部教授
寺島恒世　山形大学教育学部助教授
名子喜久雄　山形大学教育学部助教授
播摩光寿　國學院女子短期大学助教授
山本陽史　山形大学教養学部講師

〔関東〕

青柳隆志　東京成徳短期大学講師
石川了　大妻女子大学文学部助教授
伊藤一男　東京学芸大学教育学部助手
上野英二　成城大学文芸学部助教授
宇田敏彦　戸板女子短期大学教授
表きよし　国士舘短期大学講師
紙宏行　文教大学女子短期大学部講師
近藤瑞男　共立女子大学文芸学部助教授
佐藤悟　実践女子大学文学部助教授
鈴木健一　東京大学教養学部助手
鈴木俊幸　国士舘短期大学講師
武井和人　埼玉大学教養学部助教授
田中大士　上浦短期大学講師
棚橋正博　帝京大学文学部助教授
花田富二夫　大妻女子大学短期大学部助教授
播本眞一　大東文化大学文学部講師
藤田洋治　東京成徳短期大学講師
牧野和夫　実践女子大学文学部助教授
松井健児　昭和学院短期大学講師
山中玲子　法政大学能楽研究所兼任所員
湯沢質幸　筑波大学文芸・言語学系助教授
渡辺憲司　立教大学文学部教授

〔中部〕

稲垣泰一　金城学院大学文学部教授
稲田篤信　富山大学教養部助教授
大島信生　皇學館大学文学部助手
大谷俊太　南山大学文学部助教授
岡本勝　愛知教育大学教育学部教授
木越治　金沢大学教養部助教授
黒田彰　愛知県立大学文学部助教授
塩村耕　椙山女学園大学短期大学部助教授
鈴木孝庸　新潟大学教養部助教授
高木元　愛知県立大学文学部講師
玉城司　清泉女学院短期大学講師
長島弘明　名古屋大学文学部助教授
西村聡　金沢大学文学部助教授
服部直子　愛知女子短期大学非常勤講師
深津睦夫　皇學館大学文学部講師
安田徳子　聖徳学園岐阜教育大学教育学部助教授
柳澤良一　金沢女子大学文学部助教授
矢野貫一　愛知県立女子短期大学教授
山本一　金沢大学教育学部助教授
綿抜豊昭　富山女子短期大学講師
和田道子　中京大学教養部助教授

〔近畿〕

浅見緑　大谷大学文学部特別研修員
安達敬子　京都大学文学部助手
高橋圭一　大谷女子大学文学部講師
田中貴子　池坊短期大学講師
千葉真也　相愛大学人文学部助教授
藤田眞一　京都府立大学女子短期大学部助教授
藤原克巳　神戸大学文学部助教授
吉海直人　同志社女子大学学芸学部講師

〔中国・四国〕

芦田耕一　島根大学法文学部助教授
阿部真司　高知医科大学医学部助教授
石川一　広島女子大学文学部助教授
工藤進思郎　岡山大学文学部教授
久保田啓一　梅光女学院大学文学部講師
中川博夫　徳島大学教養部助教授
中村康夫　鳥取大学医療技術短期大学部助教授
松尾葦江　鳥取大学教育学部助教授
松原秀明　金刀比羅宮図書館嘱託
宮田尚　梅光女学院大学短期大学部教授
美山靖　愛媛大学法文学部教授
余田充　四国女子大学短期大学部助教授

〔九州〕

池宮正治　琉球大学法文学部教授
板坂耀子　福岡教育大学教育学部教授
井上敏幸　福岡女子大学文学部教授
今井明　鹿児島短期大学講師
小川豊生　鹿児島女子大学文学部助教授
川村裕子　活水女子大学文学部助教授
関根賢司　琉球大学法文学部助教授
園田豊　北九州大学文学部助教授
竹村信治　福岡女子大学文学部助教授
中本環　熊本大学教育学部教授
中山右尚　鹿児島大学教育学部教授

山田洋嗣　福岡大学人文学部助教授
若木太一　長崎大学教養部教授

国文学研究情報研究専門員

任期　平成2年4月1日～平成3年3月31日

青山　毅　元四国女子大学文学部助教授
白石良夫　文部省初等中等教育局教科書課教科書調査官
棚町知彌　園田学園女子大学文学部教授近松研究所長

任期　平成2年4月16日～平成3年3月31日

前田雅之　東京女学館短期大学講師

任期　平成2年5月11日～平成3年3月31日

青木周平　国学院大学文学部助教授
鈴木　豊　文教女子短期大学講師
辻　勝美　日本大学文理学部講師

共同研究員

任期　平成2年4月1日～平成3年3月31日

課題名「南北朝期古今集注釈書の研究」

武井和人　埼玉大学教養学部助教授
久保木壽子　白梅学園短期大学講師
清水素子　早稲田大学大学院文学研究科研究生
末澤明子　福岡女学院短期大学助教授
深津睦夫　皇学館大学講師
吉川栄治　早稲田大学非常勤講師
和田道子　中京大学教養部助教授

課題名「松宇文庫の調査研究」

雲英末雄　早稲田大学文学部教授
加藤定彦　立教大学一般教育部教授
櫻井武次郎　親和女子大学文学部教授
塩崎俊彦　神戸山手女子短期大学講師
田中善信　武蔵野女子大学文学部教授
中野沙恵　東京女子医科大学医学部講師
藤田眞一　京都府立大学女子短期大学部助教授
母利司朗　岐阜大学教育学部助教授
森川昭　東京大学文学部教授
矢羽勝幸　上田女子短期大学教授

課題名「江戸初期以前の演能記録の総合的研究」

表章　法政大学文学部教授能楽研究所長
表きよし　国士舘短期大学講師
竹本幹夫　早稲田大学文学部助教授
棚町知弥　園田学園女子大学文学部教授近松研究所長
橋本朝生　山梨大学教育学部教授
三宅晶子　目白学園女子短期大学講師

課題名「法会と唱導文学に関する学際的研究」

佐藤道子　東京国立文化財研究所芸能部長
千本英史　奈良女子大学文学部助教授
土谷恵　清泉女子大学非常勤講師
永村眞　日本女子大学文学部助教授
水尾寂芳　観山学院講師

課題名「日本文学の特質」―西行の研究―

ウィリアム・ラフルーア　国文学研究資料館客員教授
大隈和雄　東京女子大学文理学部教授
久保田淳　東京大学文学部教授
坂部恵　東京大学文学部教授
高木きよ子　元　東洋大学文学部教授
目崎徳衛　秋草学園短期大学副学長
山田昭全　大正大学文学部教授

第46回常設展示
徒然草
10月15日(月)～12月22日(土)
日曜・祝日を除く
於　展示室

国際日本文学研究集会会議録（第13回）

あいさつ　小山　弘志
研究発表
江戸初期諸文献による男色史　ポール・シャロウ
杜甫の「春望」と芭蕉　曹　元春
江戸時代の漢詩とリアリズム　マルグリット・大矢
『春雨物語』「目ひとつの神」の世界　金　玉姫
江戸文壇における『水滸伝』受容の形跡　胡　凱
『里見八犬伝』の龍女たち小谷野　敦
夏目漱石の漢詩と小説とのかかわり　曽　秋桂
――『三四郎』における「雲」――
日本近代文学における西洋演劇受容　金子　幸代
――森　鷗外を中心に――
公開講演
戯作の作者・作者の戯作　スミエ・ジョーンズ
春琴と佐助　秦　恒平
――「読む」という事――
記録
日程および研究集会の経過
参加者名簿
国際日本文学研究集会委員会名簿

彙報

委員会日誌

平成二年

5月17日　国文学文献資料収集計画委員会（第一回）

5月29日　国文学文献資料調査員会議（総会）

6月8日　国際日本文学研究集会委員会（第一回）

6月27日　文献目録委員会（第一回）

7月6日　共同研究委員会（第一回）

7月30日　文献目録委員会（第二回）

9月7日　国際日本文学研究集会委員会（第二回）

評議員会の開催について

本年度第一回評議員会が平成二年七月十一日（水）に開催され、会長に阿部評議員が、副会長に児玉評議員がそれぞれ就任した。議事は、国文学研究資料館長の選考、国文学研究資料館名誉教授の承認、管理運営の概況、平成元年度事業報告及び平成三年度概算要求について評議が行われた。

運営協議員会の開催について

本年度第一回運営協議員会が平成二年六月十九日（火）に開催され、議事は、国文学研究資料館名誉教授の候補者、管理運営の概況、平成元年度事業報告及び平成三年度概算要求について協議が行われた。

本年度第二回運営協議員会が平成二年九月六日（木）に開催され、会長に長谷川運営協議員が、副会長に佐竹運営協議員がそれぞれ就任した。議事は、国文学研究資料館長候補者の推薦、教官人事及び管理運営の概況について協議が行われた。

外国人研究員

ウィリアム・ラフルーア
アメリカ合衆国
現　職　カリフォルニア大学ロサンゼルス校東アジア言語文化部教授
研究題目　西行の研究
期　間　平成2年4月1日～平成2年8月31日

文部省内地研究員

伊藤　一男
現　職　東京学芸大学教育学部助手
研究題目　古代散文における和歌詠作過程の研究
期　間　平成2年9月1日～平成3年2月28日

平川　新
現　職　東北大学教養部助教授
研究題目　近世漁村史料の研究
期　間　平成2年9月1日～平成3年2月28日

私学研修員

丹羽　邦男
現　職　神奈川大学経済学部教授
研究題目　明治期土地所有関係帳簿・絵図の研究
期　間　平成2年4月1日～平成3年3月31日

外国出張

本田　康雄
目　的　古典籍に関する目録、所在情報の調査とそのマイクロフィルム撮影の連絡調整及び「古典籍総合目録」の普及と目録作成の指導（歌野）
期　間　平成2年5月14日～平成2年5月31日

歌野　博
目　的　連合王国、オランダ、西ドイツ、フランス在欧州日本古典籍の調査研究（本田）
期　間　平成2年5月14日～平成2年5月31日

安藤　正人
渡航先　オランダ
目　的　第3回アーキビスト養成国際シンポジウム出席並びにオランダ王立文書館学校資料収集及び調査研究
期　間　平成2年9月8日～平成2年9月14日

長谷川　強
小峯　和明
渡航先　フランス
目　的　在仏国文学資料の所在調査
期　間　平成2年9月24日～平成2年9月30日

海外研修旅行

松方　純

渡航先　韓国
目的　コンピュータ通信に関する合同ワークショップ出席
期間　平成2年7月4日～平成2年7月8日

安藤　正人
渡航先　マレーシア
目的　国際文書館評議会第8回総会出席及びマレーシア国立文書館施設見学
期間　平成2年7月18日～平成2年7月22日

森　安彦
渡航先　オランダ、スペイン、ポルトガル
目的　国際歴史学会議出席並びに各国文書館等の視察・調査
期間　平成2年8月20日～平成2年9月11日

人事異動（平成2年3月～平成2年8月）

（採用）平成2年4月1日付
文部教官（研究情報部助手）
佐々木孝浩
文部教官（整理閲覧部助教授）
佐伯眞一（帝塚山学院大学助教授から）
文部教官（史料館助教授）
丑木幸男（群馬県立中央高等学校教諭から）
文部教官（史料館助手）
大友一雄（徳川林政史研究所研究員から）
（転入）平成2年4月1日付
文部事務官（管理部長）
吉池孝道（群馬工業高等専門学校から）
文部事務官（管理部付）
益田義孝（北海道大学から）
文部事務官（庶務課課長補佐）
正木忠夫（東京大学から）
文部事務官（会計課課長補佐）
千葉勝志（東京大学から）
（昇任）平成2年4月1日付
文部教官（文献資料部教授）
岡　雅彦（同助教授から）
文部教官（史料館教授）
鶴岡実枝子（同助教授から）
文部教官（史料館教授）
浅井潤子（同助教授から）
文部教官（史料館助教授）
安藤正人（同助手から）
（転出）平成2年4月1日付
文部事務官（管理部長）
大嶋　浩（国立教育研究所へ）
文部事務官（庶務課課長補佐）
佐藤　整（東京大学へ）
文部事務官（会計課課長補佐）
石渡孝義（東京大学へ）
（停年退職）平成2年3月31日限り
文部教官（研究情報部教授）
山中光一
文部教官（史料館教授）
安澤秀一（明海大学就職）
文部教官（史料館教授）
原島陽一
（辞職）平成2年3月31日付
文部教官（研究情報部助手）
末澤明子（福岡女学院短期大学就職）
（客員教授）平成2年4月1日～平成3年3月31日
文献資料部　宮　次男（実践女子大学教授）
（併任）平成2年4月1日付
研究情報部長　新井栄蔵
（併任）平成2年4月1日～平成2年9月30日
文部教官（文献資料部助教授）
位藤邦生（広島大学助教授）
（配置換）平成2年6月8日付
文部事務官（情報サービス室長）
益田義孝（管理部付から）

国文学研究資料館名誉教授の称号授与

国文学研究資料館名誉教授称号授与規程に基づき、平成2年7月11日付けで、次の二名の方に称号が授与された。

○山中光一　大正15年4月26日生
昭和49年4月1日から助教授として在職、引続き昭和57年4月1日から平成2年3月31日まで教授として在職。

○安澤秀一　大正15年12月2日生
昭和53年4月1日から平成2年3月31日まで教授として在職。

国文学研究資料館永年勤続者の表彰

国文学研究資料館永年勤続者表彰規程に基づき、平成2年3月31日付けで、次の二名の方に表彰状を授与し、記念品の銀杯を贈呈した。

○山中光一（研究情報部教授）
○原島陽一（史料館教授）

国文学研究資料館

第14回　国際日本文学研究集会

14th International Conference on Japanese Literature in Japan

とき：平成2年11月16日（金）～17日（土）　ところ：国文学研究資料館

11月16日（金）

あいさつ（13：20～）	小山弘志（国文学研究資料館長）
研究発表（13：30～17：15）	
①「桃太郎」における鬼退治の意味	呉　讃旭（東京都立大学大学院）
②説経節『小栗』における中世から近世へ	Nicola LISCUTIN（早稲田大学大学院）
③朝鮮通信使と歌舞伎	朴　賛基（二松学舎大学大学院）
④虫籠をめぐる詩歌史管見	鈴木健一（東京大学）
⑤漢詩文：広大な精神文化的空間 —明治初期　中、日文人による漢詩応酬の一例—	葉　英樹（東京大学大学院）
⑥森鷗外の「高瀬舟」と外国文学	張　小玲（甲南女子大学大学院）

11月17日（土）

研究発表（10：30～　　）	
⑦韓国モダニストの日本文学受容 —李箱詩と横光利一をめぐって—	佐野正人（東北大学大学院）
⑧島尾敏雄『日の移ろい』試論	Philip GABRIEL（コーネル大学大学院）
⑨水上文学と中国	柯　森燿（上海師範大学）

公開講演（13：20～　　）—聴講無料—

平家物語の文章の研究	Karel FIALA（チェコスロバキア・科学アカデミー東洋研究所常任研究員）
王朝の楽人達 —音楽史の一断面—	福島和夫（上野学園大学教授）

用語	日本語
参加費	4,000円
申込方法	はがきに①氏名（ふりがな）②住所③現職（所属）④専攻を記してお申し込みください。
参加申込締切	平成2年10月31日（火）当日受付もいたします。
連絡先	国文学研究資料館研究情報部情報資料室内 国際日本文学研究集会事務局 〒142 東京都品川区豊町1-16-10　電話03(785)7131　内線402・241

利用者へのお知らせ

◆マイクロ資料のサービス区分変更について

このたび宮城県の鹽竈神社（磯貝洋一宮司）、宮城県図書館（郷古康郎館長）の格別の御配慮により、当館におけるマイクロ資料の複写のサービス区分を次のとおり変更していただくことになりました。

(1)鹽竈神社

これまで鹽竈神社のマイクロ資料のサービス区分は「D」（事前許可）でしたが、「A」（事後報告）に変わりました。これに該当する鹽竈神社の資料は、『マイクロ資料目録一九八三年』（第7冊）に収録されています。

(2)宮城県図書館（伊達文庫）

これまで宮城県図書館（伊達文庫）のマイクロ資料のサービス区分は「C」（事前許可）でしたが、「B」（事後報告、ポジ作成は不可）に変わりました。これに該当する宮城県図書館（伊達文庫）の資料は、『マイクロ資料目録一九八二年』（第6冊）に収録されています。

なお、文庫番号は、鹽竈神社が「S2」、宮城県図書館（伊達文庫）が「90」です。

◆所蔵原本（写本・版本）のマイクロ化について

当館では、これまで所蔵原本（写本・版本）は、ごく一部しかマイクロ化されておらず、利用者の方から複写申込があった場合、その都度、撮影を行ってまいりました。

こうした状態を改善するため、昨年度から、当館所蔵原本のマイクロ化事業がスタートし、昨年度は、約十五万コマ・七一六点の撮影を行いました。今年度は、昨年度の二倍の三十万コマの予定で、撮影が進められております。この事業は、来年度以降も継続して行う予定です。

なお、この事業にともない、当館所蔵原本の撮影は、外部委託（外注）となりました。

◆閲覧利用案内ガイドシステムについて

このたび閲覧室に閲覧利用案内ガイドシステムを導入しました。このガイドシステムは、「資料利用案内」を画像化したもので、利用者自ら簡単なキー操作で閲覧利用に必要な画像情報（静止画像）を選択できるものです。初めて来館される方は、どうぞご利用ください。

◆新指定貴重書

当館では、新規受入図書の中から、特に資料的価値が高いと認められるものを選んで、貴重書に指定しておりますが、このたび次の資料三点が新たに貴重書に指定されました。これによって、当館の貴重書は、計七五点となりました。

- 『扇の草紙』（写）
- 『保元物語・平治物語』（写・室町後期）
- 『太平記鈔』（刊・慶長）

◆「共同利用のてびき」一九九〇年版の作成について

当館では、創設以来、共同利用機関として全国の利用者の皆様に均等に利用していただくために、相互協力サービスを特に重視し、積極的に取り組んでまいりました。

その一環として、利用者が所属している機関の図書館等を通して当館を利用していただくための具体的な方法や手続等を記したリーフレット「共同利用のてびき――相互協力サービス案内」を作成してまいりました。

このたび、その一九九〇年版（第3版）ができましたので、お知らせいたします。

図書館・文庫等、関係各位に配布いたしましたが、来館利用者にも配布いたしておりますので、必要な方は、閲覧カウンターで係員にお申し出ください。

◆参考開架図書の配架について

三階参考開架閲覧室の改装にともない、参考開架図書の配列、配架場所が一部変わりました。例えば、国文学関係の図書は、時代別（上代・中古・中世・近世・近代）に分類した上で、分野別（歌謡・和歌・物語等）に配列する、などです。詳しくは、参考開架閲覧室の掲示をご覧いただくか、カウンターで係員におたずねください。

平成元年度秋季学会開催一覧

①事務局　②学会開催日　③会場

解釈学会　①〒101 千代田区神田神保町２-46教育出版センター内03-239-5438　②11月３日　③未定

歌舞伎学会　①〒101 千代田区神田小川町３-８ 駿河台ヤギビル５Ｆ八木書店出版部内03-233-0443　②12月１日　③玉川学園大学

訓点語学会　①〒192-03 八王子市東中野742-１ 中央大学文学部国文学研究室内0426-74-3789　②10月19日　③高知市高知会館

芸能史研究会　①〒606 京都市左京区浄土寺真如町77紫雲荘６ 075-761-8718　②12月８日　③国文学研究資料館

計量国語学会　①〒167 杉並区善福寺２丁目 東京女子大学３号館111号室03-395-1211内305　②９月22日　③上越教育大学

国語学会　①〒113 文京区本郷７-３-１ 東京大学文学部国語研究室内03-812-2111　②10月20、21日　③高知大学

昭和文学会　①〒101 千代田区猿楽町２-２-５ 笠間書院内03-295-1331　②10月６、７日　③橘女子大学

説話文学会　①〒154 世田谷区太子堂１-７昭和女子大学文学部日本文学科松田研究室内03-411-5111内310　②12月１日　③名古屋女子大学

全国大学国語国文学会　①〒101 千代田区猿楽町１-３-１ 桜楓社気付03-295-8774　②10月27、28、29日　③いわき明星大学

中古文学会　①〒169 新宿区西早稲田１-６-１ 早稲田大学教育学部中野幸一研究室内03-203-4141　②10月13、14日　③宮城学院女子大学

中世文学会　①〒113 文京区本郷７-３-１ 東京大学文学部国文学研究室内03-812-2111　②10月20、21、22日　③中京大学

日本演劇学会　①〒169 新宿区西早稲田１-６-１ 早稲田大学演劇博物館内03-203-4141内5214　②11月17日　③近畿大学

日本音声学会　①〒110 台東区東上野３-25-６ 蒼洋社ビル５Ｆ 03-839-3957　②９月29、30日　③千葉大学

日本歌謡学会　①〒630 奈良市高畑町 奈良教育大学真鍋研究室内0742-26-1101　②10月13、14日　③沖縄国際大学

日本近世文学会　①〒184 小金井市貫井北町４-１-１ 東京学芸大学国語教育学科古典第６研究室内0423-25-2111内2311　②11月24、25、26日　③武庫川女子大学

日本近代文学会　①〒150 渋谷区東４-10-28 国学院大学文学部日本文学第８研究室内03-409-0111内538　②10月27、28日　③国学院大学

日本口承文芸学会　①〒114 北区西ケ原４-51-21 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所川田研究室気付03-917-6111内384　②10月13日　③中央大学

日本語教育学会　①〒107 港区赤坂１-８-10 第９興和ビル内03-584-4872　②10月６日　③昭和女子大学

日本児童文学会　①〒182 調布市緑ケ丘１-25 白百合女子大学児童文化研究室気付03-326-6910　②11月17、18、19日　③白百合女子大学

日本社会文学会　①〒102 千代田区富士見２-17-１ 法政大学文学部西田勝研究室内03-264-9751　②10月20、21、22日　③金沢大学

日本文学協会　①〒170 豊島区南大塚２-17-10 03-941-2740　②10月13、14日　③北海道大学

日本文学風土学会　①〒214 川崎市多摩区東三田２-１-１ 専修大学文学部国文学科内044-911-7131　②11月17日　③専修大学

日本文芸研究会　①〒980 仙台市青葉区川内 東北大学文学部国語学国文学研究室内022-222-1800内2503　②11月３日　③東北大学

日本文体論学会　①〒110 台東区下谷１-５-34 三修社内03-842-1711　②11月10、11日　③尚絅大学

日本方言研究会　①〒115 北区西ケ丘３-９-14 国立国語研究所気付日本方言研究会幹事03-900-3111　②10月19日　③高知女子大学

俳文学会　①〒651 神戸市北区鈴蘭台北町７-13-１ 親和女子大学国文学研究室内078-591-1651　②10月20、21、22日　③伊丹市アイ・ホール

万葉学会　①〒565 吹田市千里山東３丁目 関西大学文学部国文学研究室内06-388-1121内5012　②10月13、14、15、16日　③専修大学

紫式部学会　①〒230 横浜市鶴見区鶴見２-１-３ 鶴見大学文学部日本文学科研究室内045-581-1001内242　②12月１日　③学習院大学

和歌文学会　①〒102 千代田区三番町６ 二松学舎大学国文学研究室内03-261-7406　②10月６、７、８日　③二松学舎大学

和漢比較文学会　①〒228 相模原市文京２-１-１ 相模女子大学国文科矢作研究室内0427-42-1411　②11月16、17日　③梅光女学院大学

国文学研究資料館報　第三十五号
平成二年九月発行
編集・発行者
国文学研究資料館
東京都品川区豊町一-一六-一〇
郵便番号一四二
電話(七八五)七一三一（代）
印刷所　株式会社　三興